

祖父のお米

白山中学校一年 結城 智弘

僕は、いつものようにお米を食べています。僕の家で食べているお米は、新潟の祖父がよく送ってくれた、新潟県産コシヒカリです。新潟に住む祖父が作ったお米は、モチモチでとても甘いので好きです。

ずっととお米を作り続けている祖父は、八十歳を過ぎていて、体もつらいはずなのに、米づくりを続けていて、尊敬し、感謝もしています。

ます。僕は、なぜそんなに米づくりを続けていられるのか気になり、今年の七月に、祖父の家に行き、話を聞きました。

「おじいちゃん、なんでそんなに長い間、米づくりを続けていられるの？」

僕は、とても気になり、つい大きな声で聞いてしまいました。立っていた祖父は、近くのいすも座っている椅子に腰を下ろして、少し笑いかけて、僕の座っている方を向いて、話してくれました。

「気になるの？いいよ。教えてあげるよ。
おじいちゃんはね、いつもお米を作るとき、
みんなの顔を想像するんだよ。みんなが喜ん
でおいしそうに食べている様子を想像すると
ね、やる気につながるんだよ。」だから、続け
ていられるんだよ。」
祖父は、意気揚々と話してくれました。僕は、
そんな祖父を見て、すごいと思い、お米に興
味が湧いてきました。

「でも、さすがにつらいことやいやなこと

あるでしょ。」

「つらいことや、いやなことかあ。」

祖父は、眉間にしわをよせて少し考えていま
した。そして、祖父はふと思い出したのが、
僕の日を見て、話してくれました。

「つらいことはね、米づくりをする人が減っ
ていることかな。おじいちゃんの地域はね、
組織で米づくりをしているんだけどね、今の
米づくりをしている人で一番若い人と言っ
ても五十歳ぐらいで、同じぐらいの年の人でも

とくなったり米作りをやめてしまいう入が
いるからさびしいね。

祖父は、少し悲しそうな顔で話していました。

「いやなことは何？」

「いやなことはね、収穫が少なくなることか

な。農家はね、天気がけっこう大事なんだよ。

急に台風が来たり、ずっと雨が降らないで、

暑かったりすると、稲が悪くなっで、良いお

米が採れなくなるから、けっこう大変なんだ

よ。

「そうなんだ。大変なんだね。」

米作りの大変さを知って、僕は米作りはそん

な単純じゃないんだと良くわかった気がしま

した。

「でもね、大変だからこそ苦勞して収穫し

た時の喜びが大きいんだよ。だからずっと農

家をしていて良かったと思うんだよ。」

「そうなんだ。たくさん収穫できたら、うれ

しんだね。色々教えてくれてありがとう。」

話が終わると、僕は田を見に行きました。

田は、緑色の稲でうめつくされていました。稲は日に当たり、すごく輝いているように見えました。人の努力や想いがあるのだと考え、て田を見ていると、より一層輝いて見え、心も体も温かくなった気がしました。

僕は、今までお米は、あたりまえにあるもので、いつもなににも考えずに食べていました。ですが、祖父の話を聞いてお米に対する思いが変わった気がします。これから、ただ食べるのではなく、もっと作ってくれた人や、

周りの人に感謝していきたいです。